

令和7年度の研究（または活動）内容

1) 岩手県九戸郡洋野町「おおのキャンパス」(地域拠点・人材育成・技術継承など)

今年度も洋野町との受託事業「おおのキャンパス 活性化基本計画(案)」策定に取り組んだ。2023年より「おおのキャンパス」のソフト・ハードの両面の諸課題調査及びその解決策を探りつつ、具体的な再生の途を描くための基本計画策定事業であり、グランドデザインで掲げたプロジェクトが具現化するよう、実施部会を組織し、ワークショップの開催、他事例視察などを行って、基本計画の前提条件やロードマップなどの策定を行った。また大野木工についても技術継承や人材育成を目指した体制や連携協力などの検討を行った。



プロジェクト実施に向けたワークショップ

2) 仙台市太白区八木山地域(防災減災・福祉まちづくり・医療介護連携・空き家等対策など)

仙台八木山防災連絡会を始め、八木山まちづくりプロジェクト、八木山地域医療介護連携の会、ございん八木山などと主体的で持続的なまちづくりに向けた活動研究を行った。また、2017年、2023年に行った空き家等調査を活かし、現状と対策を明らかにするための研究を行った。

・**仙台八木山防災連絡会(2025年度45団体)** 2025年度も引き続き、あらゆる団体と協働し、日常から非日常での自助・共助力を推進するための活動と研究を行った、特に「**医療福祉関連部会**」で企画する「八木山ふれあいまつり」(9月)では、世代間交流や健康維持などを楽しく習得するスタンプラリー、「地域防災シンポジウム in 八木山」では、小中学生から大人までが共に防災減災を学ぶ企画を行った。



仙台赤十字病院で開催の八木山ネットワーク

・**八木山地区医療介護連携の会「八木山(やぎさん)ネットワーク」** 今年度は、7月(第18回)「災害時や非常時の体験を語ろう! 学ぼう!」、11月(第19回)「認知症」、2月(第20回)「ACP」を開催し、毎回60名から70名の医療介護関係者が集い、話題提供とグループワークによる交流や意見交換の場となった。



八木山キャンパスのラベンダー活用をテクラボにて

・八木山まちづくりプロジェクト 「八木山ハーブまちづくり」では、主体的な活動メンバーとなりうるキーパーソンの方、障害がある方(知的や重複障害など)やそのサポーターなどに集まっていただき、活動の意見交換などを行った。「八木山みんなのカフェ」では、現代の QOL 向上には欠かせないスマートフォン活用、シニア世代の健康維持の課題解決に向けた活動と調査、世代間交流と生活技術力向上を目指した、タケノコ取り、モルックやボッチャ体験の他に、障害がある方(視覚障害)との交流会を行った。

また、学内公募研究として、これまで行った八木山地域の空き家等調査のフィードバックと追跡調査を行った。

さらに、今年度は並河氏を中心に「八木山カルタ」の作成を行い、次年度につなげることとした。



視覚障害がある方による童話民話の語りと交流

・ございん八木山 地域で譲渡を受けた一軒家を地域拠点としての方向性を探る活動や調査を 2025 年度も「区民協働まちづくり事業助成事業」として実施した。菊地教授、坪子氏、佐藤友章氏、手漉き和紙工房潮紙の塚原氏らによる手わざ講習会、「スマホを学ぼう」では山口氏にも協力をいただいた。今年度は、理事に若手の就任もあり子どもや育児対象の活動、町内会とも連携した活動に向けた試みも行い、新たな参加者や認知も広まった。



「スマホを学ぼう」での世代間交流

・子ども参画壁絵描き事業「でっかい夢を描こう」 仙台市八木山市民センター主催の子供参画壁絵描き事業は、2012 年から 2025 年の 13 年間継続する事業として行われている。今年度も中学生企画員の他、美術部の参画も得られて実施するなど、子どもたちの主体的な地域活動参加や世代間交流、地域への愛着等に向けて検討した。

※ 令和 7 年度太白区まちづくり活動賞に表彰

東北工業大学 地域のくらし共創デザイン研究所は、これまでの八木山地域での活動が、「生きがいとやさしさ、健やかさを生み出すまちづくり活動」、「安全で安心して暮らすための快適で住みよいまちづくり活動」の分野で認められ、「令和 7 年度太白区まちづくり活動賞」に表彰されました。



3) 仙台市太白区秋保地域(大学と地域の連携まちづくり事業など)

・**野尻いぐする会との連携事業** 秋保総合支所などとも協働で野尻いぐする会が主催する事業などを支援したり、新企画を立案したりしつつ、現状や課題の把握を行った。

・**秋保地区社会福祉協議会との連携事業** 2022 年から「秋保くらしの座談会」で関わり住民主体の活動につながった事業「秋保カフェございん」や「秋保ひだまり縁側の会」など、本研究所のイベント企画や活動支援などを行い、今後の課題を解決するための実践的活動や研究を行った。



野尻いぐする会との季節の体験事業



秋保ひだまり縁側の会の開会式

4) 道の駅津山もくもくランド(地域拠点・地場産業継承など)

台風で被災した「道の駅津山もくもくランド」の再出発を機に、高齢化人口減少、生活不便、木工産業や農林業など、地域の生産とくらしを考慮した地域拠点のありかたを共創している。今年度は、「道の駅津山もくもくランド活性化推進協議会」の委員として、他地域の視察などを行い、「屋内木育広場整備事業」として活用を具体的に検討し、特にハード面の設計に関して登米市長に説明を行った。

5) みやぎ地場産品開発流通研究会と秋岡・時松継承協議会(人材育成・技術継承など)

研究会の会員として、雄勝硯生産販売協同組合、津山木工芸品事業協同組合、大崎市竹工芸館、手しごと AKIU、大野木工、熊本県伝統工芸館など、伝統産業や工芸などは、商品開発の課題だけでなく、人材育成や技術継承の課題があり、当該産業だけでは解決できない現状である。引き続き、各産地の連携を保ちながら、課題解決のための活動や研究を行った。2026 年 4 月から 5 月末まで大分県立美術館で行われる時松氏の展示会、木工品の仕上げ(塗装)やろくろ発注などについても情報交換などを行った。